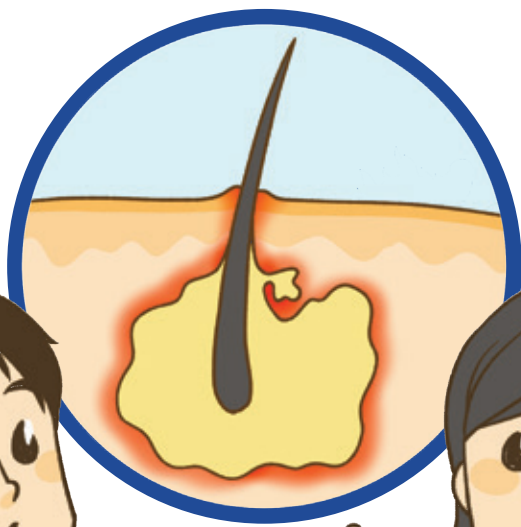


化膿性汗腺炎は どんな病気？

化膿性汗腺炎教育プログラムHS-SAPPHIRE® 作成委員会 作成
代表監修者：角田 加奈子 先生(岩手医科大学医学部皮膚科学講座 講師)



はじめに

このガイドブックは、化膿性汗腺炎かのうせいかんせんえんと診断された方、あるいは「もしかして化膿性汗腺炎かも?」と思っている方のためのものです。

化膿性汗腺炎は、毛穴で炎症がおこる慢性の皮膚の病気です。わきの下、胸の下、そけい部(足のつけ根)、おしりなどによく見られます。痛みのある赤く腫れたおできや膿うみがたまるしこりが繰り返し現れ、だんだんと炎症の範囲が広がります。進行すると皮膚の下でトンネルろうこうができたり、皮膚が硬く厚くなって癬痕はんこんが残ることもあります。原因はまだはっきりとわかっていませんが、毛穴の出口がふさがることをきっかけに、炎症が起こると考えられています。

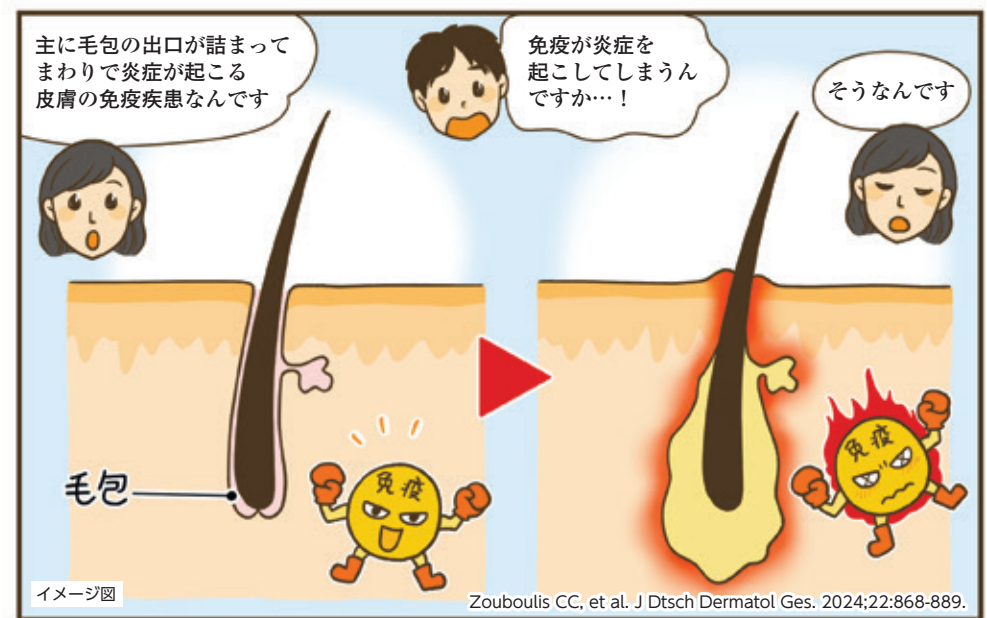
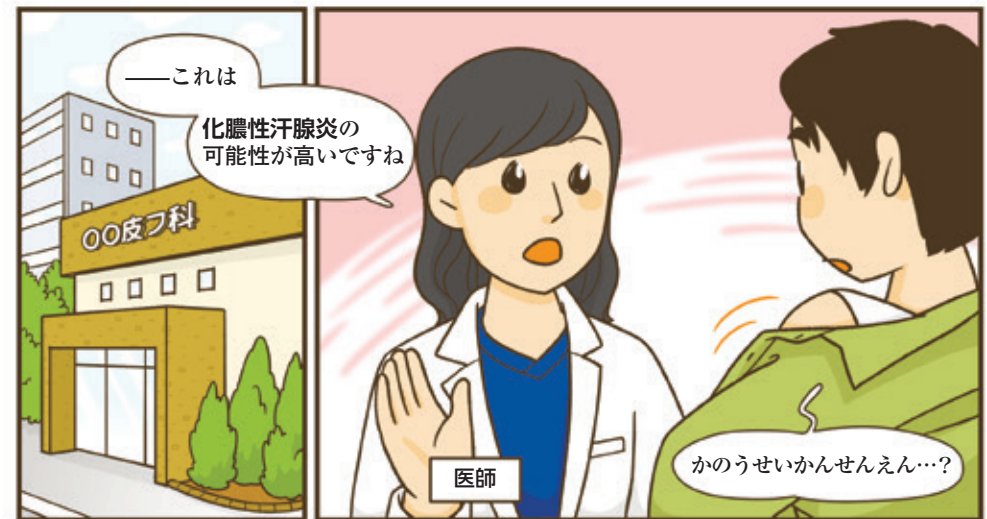
10代後半から40代で始まることが多く、放っておくと痛みやにおい、衣服の汚れなどが気になり、仕事や学校生活、人間関係に影響することがあります。

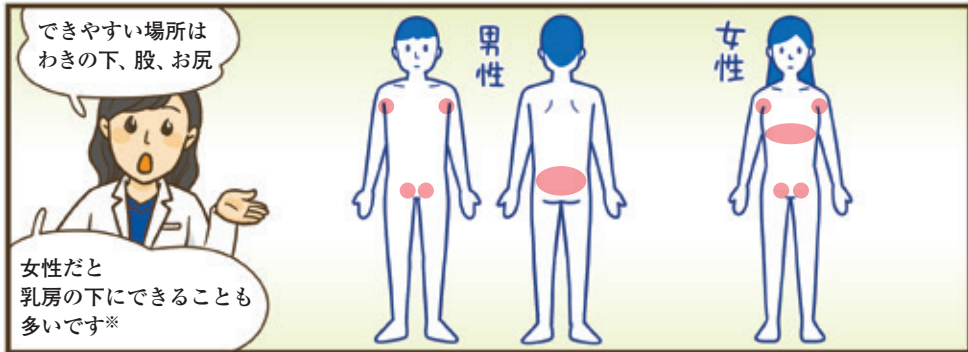
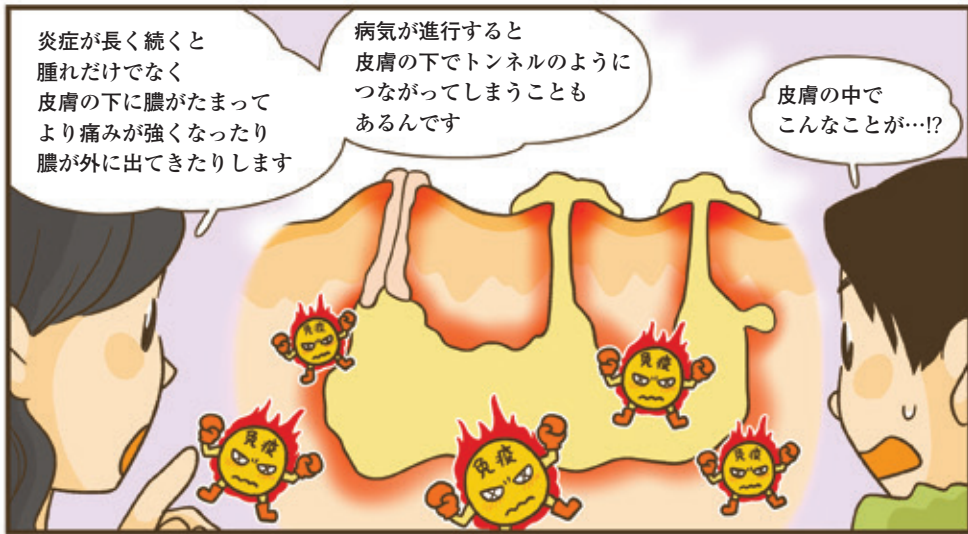
早めに適切な治療を行うことで、痛みや腫れを抑え、症状の進行を防ぐことが期待できます。

目次

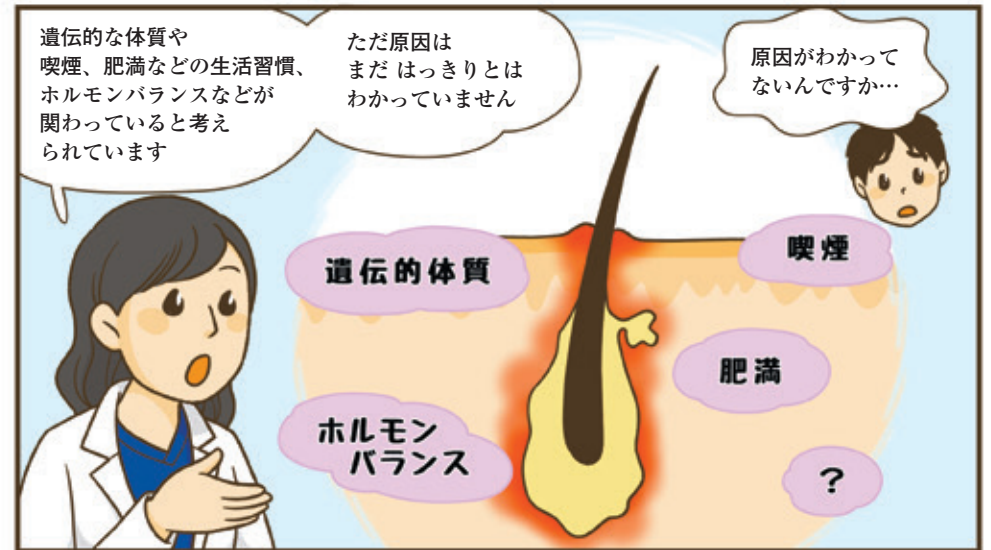
繰り返すできものの正体	2
化膿性汗腺炎の症状と進行のしかた	6
化膿性汗腺炎の治療	8
化膿性汗腺炎の重症度と治療	10
化膿性汗腺炎と上手に付き合うための日常生活の工夫	12
患部の対処法	14
受診のときに伝えておきたいこと	15
HS-SAPPHIRE® 作成委員会	16

繰り返すできものの正体







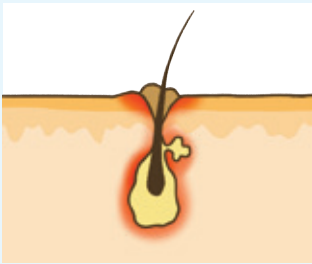
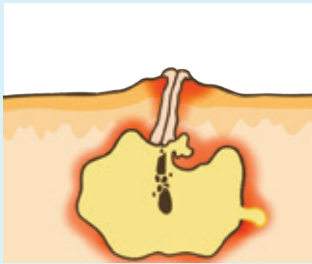
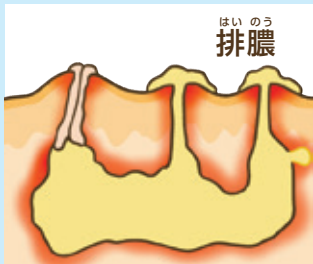
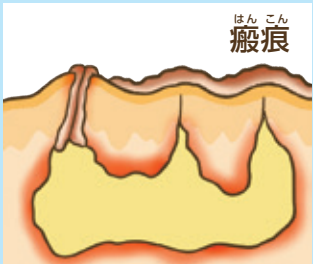


*しやすい場所(わきの下、股、お尻)以外の場所にもできることがあります。



化膿性汗腺炎の症状と進行のしかた

最初は痛みのある、赤く腫れたおできのような症状ですが、次第に膿がたまり、繰り返すうちに皮下でつながってトンネル(瘻孔)を作るようになります。状態が慢性化すると、患部が広がり、**癬痕**と呼ばれる傷跡ができてしまう可能性があります。

症状	<p>赤く腫れたしこり(結節) けっせつ</p>  <p>イメージ図(わきの下)</p>	<p>膿がたまる(膿瘍) のうよう</p>  <p>イメージ図(わきの下)</p>	<p>皮下でつながる瘻孔 ろうこう</p>  <p>イメージ図(わきの下)</p>	<p>癬痕の形成 はんこん</p>  <p>イメージ図(わきの下)</p>
	<p>病態</p>  <p>毛穴が詰まり、炎症が始まります。痛みを伴うことがほとんどです。</p>	 <p>炎症が強くなり、皮膚の下に膿がたまります。破れて膿が流れ出ることもあります。</p>	<p>排膿 はいのう</p>  <p>いくつかの膿瘍がつながって、皮膚の下でトンネルが形成され、膿が出続けることもあります。</p>	<p>癬痕 はんこん</p>  <p>膿瘍の再発を繰り返すと皮膚が厚くなり、癬痕とよばれる硬く盛り上がった傷跡が残ることもあります。</p>

化膿性汗腺炎における免疫の関与

化膿性汗腺炎は、細菌感染によるものではなく、免疫システムの異常によって引き起こされる慢性的な炎症性疾患です。何らかの要因で免疫細胞が毛包に異常に集まり、**TNF α** やインターロイキン(IL)-1、IL-17などといった炎症性サイトカインを過剰に産生し、これらのサイトカインが炎症を悪化・慢性化させ、毛包の破壊や瘻孔の形成を引き起こします。



化膿性汗腺炎の治療

化膿性汗腺炎の治療は、症状に応じて、薬による治療、外科治療(病変部位の切除など)、生活指導(病気を悪化させないための工夫)、併存疾患に対する治療などを組み合わせて行います。



Frew J, et al. Australas J Dermatol. 2025;66:75-89.より改変

●薬物治療

外用薬	外用抗菌薬	
内服薬	抗菌薬、抗炎症薬	
注射薬	生物学的製剤	炎症の原因物質(免疫)を抑え、病気の活動を制御する全身治療
	ステロイド局所注射	腫れや痛みを一時的に鎮める局所治療

●外科治療

切開・排膿	腫れている部分を切り開いて、中にたまった膿を外に出します。
部分切除・デルーフィング	炎症のある部分や瘻孔を手術で部分的に取り除きます。瘻孔の上の皮膚を切除して自然に治癒させる方法(デルーフィング)もあります。
広範囲切除・皮弁 / 植皮	病変を広範囲に切除した後、傷をふさぐために植皮(体の別の場所から薄く皮膚だけを移植)や皮弁(近くの皮膚を皮膚の下の組織ごと、つなげたまま動かして移植)を行います。

●補助的治療

痛みの治療	鎮痛薬の内服
併存疾患の治療	高血圧や肥満、糖尿病などの生活習慣病が併存している場合には、これらの治療も同時に行います。
心理社会的治療	痛みや長引く症状のせいで、気持ちが沈んだり、不安になることがあります。必要に応じて、うつや不安に対する治療を行います。

●生活指導

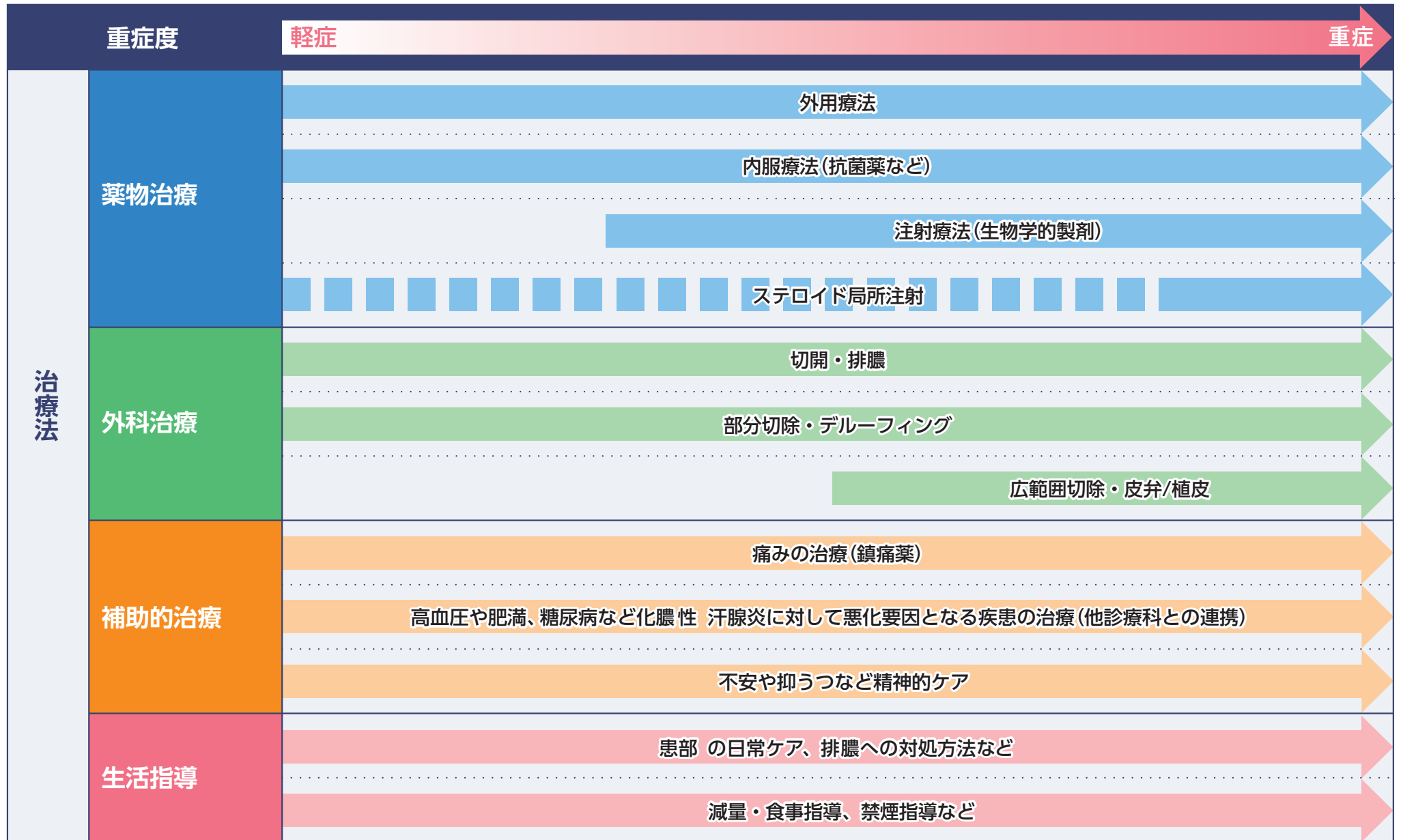
患部の処置指導	患部の洗浄や自宅での処置方法を指導します。
減量指導 運動・食事指導	日々の生活習慣を整えることで治療効果を高め、症状をコントロールしやすくなります。
禁煙指導	喫煙は症状を悪化させるため、禁煙を指導します。

葉山惟大, ほか. 日皮会誌. 2021;131:1-28.

化膿性汗腺炎の重症度と治療

化膿性汗腺炎の治療は、疾患の重症度によって、適切な治療の組み合わせで実施 します。

薬物治療や外科治療のほかに、化膿性汗腺炎を悪化させる併存疾患の治療や生 活指導、痛みに対する補助的治療なども併せて行います。



化膿性汗腺炎と上手に付き合うための日常生活の工夫

清潔にするため…

患部を石鹸で洗い、清潔に保つようにしましょう。

膿が出る場合は、ガーゼや包帯をこまめに替えましょう。

汗をかいたら早めに着替えましょう。

睡眠中も汗をかくので、寝具をこまめに洗濯するなど清潔を保つよう心がけましょう。



衣類など肌に触れるものの選び方…

やわらかく刺激の少ない素材や、通気性や吸湿性の良い素材の衣類を選びましょう。

締め付けの強い下着や衣類は避け、ゆったりした服装を心がけましょう。

お尻や股にあてたガーゼは一分丈のショーツを履くとずれにくくなります。



生活習慣の改善のため…

禁煙に取り組みましょう。

暴飲暴食を避け、規則正しい食生活を心がけましょう。

ストレッチやウォーキングなどの軽い運動を日常に取り入れてみましょう。



患部の対処法

自宅での処置は、患部の清潔を保つために大切です。医師や看護師の指導のもと、処置の手順を確認し、必要な物品を揃えましょう。

●処置のポイント

POINT
1

患部を洗った後はタオルで押さえるように水分を拭き取ります。患部にくっついたガーゼは入浴時にシャワーなどをかけてゆっくりはがすとスムーズです。

POINT
2

膿や^{しんしゅつ}滲出液が多い場合は、患部よりも大きめのガーゼや吸収パッドを使用しましょう。



POINT
3

粘着力が強すぎるテープは、はがすときに痛みを感じたり、皮膚を傷めることがあります。ガーゼやテープの種類については、医師や看護師に相談して決めましょう。

●あると便利な「処置BOX」

- ✓ 手指消毒剤、ガーゼ、やわらかいテープ
- ✓ はさみ、廃棄用の不透明袋
- ✓ 大きめの手鏡(背面の観察や処置時に)
- ✓ 痛みや膿の量などを記録する小ノート
- ✓ 病院から処方された塗り薬



受診のときに伝えておきたいこと

医療機関を受診するときは、症状の変化や困っていること、治療に関する希望などをあらかじめメモしておく、診察がスムーズです。下のような点を整理しておく、医師にうまく伝えられます。

化膿性汗腺炎の症状に関して

- 新たな部位に症状が出てきた
- 痛みやかゆみがひどくなった
- 膿が出る量が多くなった

化膿性汗腺炎による日常生活への影響に関して

- 痛みがひどく座ってられないことや眠れないことがある
- 臭いが気になり、外出をためらうことや、仕事や学校を休むことがある
- 膿で衣服が汚れるせいで、家族に気がつかう
- 何もやる気が起きず、将来に対して不安でいっぱいになる

化膿性汗腺炎に関する治療に関して

- 現在の治療はあっていないようなので、他の治療法を試したい
- 治療薬の副作用と思われる症状があり、不安になった
- 痛みを軽減させる方法を教えてほしい

など

本冊子「化膿性汗腺炎はどんな病気？」は、 HS-SAPPHIRE® 作成委員会が作成しました。

HS-SAPPHIRE® 作成委員会

HS-SAPPHIRE®は、一般社団法人日本乾癬学会とユーシービージャパン株式会社による、化膿性汗腺炎の適正な診断・治療の普及のためのプログラムです。

委員長

藤田 英樹 (日本大学医学部皮膚科学系皮膚科学分野 主任教授)

作成メンバー(五十音順)

浅井 純 (京都府立医科大学大学院医学研究科皮膚科学 講師)

足立 剛也 (慶應義塾大学医学部皮膚科学教室 専任講師)

石塚 洋典 (大阪大学大学院医学系研究科皮膚科学教室/皮膚免疫疾患治療学共同研究講座 特任講師)

辻 学 (九州大学病院皮膚科・油症ダイオキシシン研究診療センター 准教授)

角田 加奈子 (岩手医科大学医学部皮膚科学講座 講師)

西田 絵美 (名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 皮膚科部長・教授)

乃村 俊史 (筑波大学医学医療系皮膚科 教授)

葉山 惟大 (日本大学医学部皮膚科学系皮膚科学分野 准教授)

前川 武雄 (自治医科大学附属さいたま医療センター皮膚科 教授)

山口 さやか (琉球大学大学院医学研究科皮膚科 講師)

Advisor/Reviewer(五十音順)

高橋 健造 (琉球大学 名誉教授)

林 伸和 (虎の門病院 皮膚科 部長)

森田 明理 (名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 病院長/名古屋市立大学大学院医学研究科 教授)

MEMO





一般社団法人日本乾癬学会



ユーシービージャパン株式会社

医療機関名

担当医名

連絡先
